

地域における大学スポーツ資源の有効活用を実施

- ICTを活用したスポーツ施設利用管理システムの構築
- 先行事例の視察とスポーツ・健康づくりによるまちづくりコンソーシアムにおいて意見交換と事業実施
- 個人利用可能施設の一般開放の促進

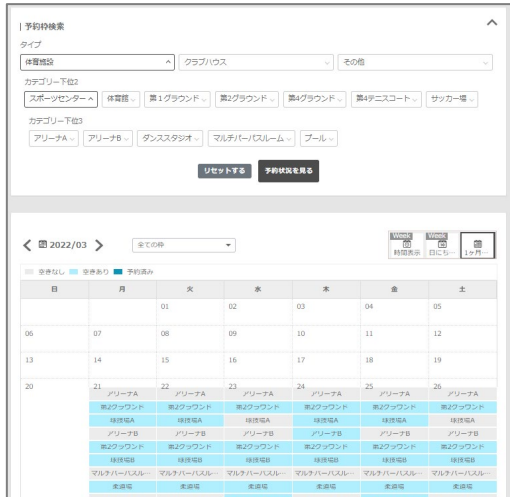
事業目的 新キャンパス開設後、学生数が半減した既存キャンパスのスポーツ施設を、近隣の自治体・住民団体に有効活用してもらう

本学の現状および課題
 本学は、多種多様なスポーツ施設を有しており、個人利用から複数施設の一体的な開放による「イベント会場」としての提供も可能であるが、以下の問題点がある。

- ①予約方法・・・紙による予約方法のため、確保の意味合いが強く、実際は稼働していない事が多い。
 また、外部利用者へ施設の稼働状況が提供できていない。
 →ICTを活用したスポーツ施設利用管理システムの構築
- ②利用者拡大の方策・・・実績不足のため、ノウハウの蓄積が必要である。
 →先行事例の視察
 →スポーツ・健康づくりによるまちづくりコンソーシアムにおいて意見交換と事業実施
 →個人利用可能施設の一般開放の促進

ICTを活用したスポーツ施設利用管理システムの構築

運動部学生の施設予約は前月の5日までに用紙にて行っていたため、予定での申請が多く、施設利用申請というよりは、「確保」の意味合いが強く、実際の使用時間よりも多くの時間申請がされていた。そのため、予約管理システムを導入することにより、施設の状況をリアルタイムで把握することができ、業務の効率化と利用者の利便性が向上した。



先行事例の視察

沖縄県うるま市立伊波小学校の「スマートチェックインシステム」を視察。操作も簡単で、安価での導入が可能であり、このシステムが導入できれば、鍵の管理の負担軽減につながる。

コンソーシアムにおける意見交換と事業実施

コンソーシアムは、本学及び地域課題を解決していくために「スポーツ」や「健康づくり」をキーワードにして設立された。本学とコンソーシアムが連携し、本学のグラウンドを活用したサッカー大会「AGUCUP2021大会」を実施した。



個人利用可能施設の一般開放の促進

フィットネススタジオ（トレーニング室）とプールの利用者拡大のため、イベントの実施や回数券を販売した。また、新聞の折込広告を行い、大学のスポーツ施設が利用可能であることを周知した。更に、トレーナーを配置することで、利用者のモチベーション維持・サポートを強化した。

